

読書の楽しさを味わい、進んで図書を活用する子ども

令和元年度 学校図書館活用推進実践報告

新潟市立升潟小学校

□努力事項

- (1) 読書時間の確保と楽しい読書活動の工夫
- (2) 調べ学習における図書館利用の習慣化
- (3) 読書センター・学習センターとしての図書館整備，管理

□実践

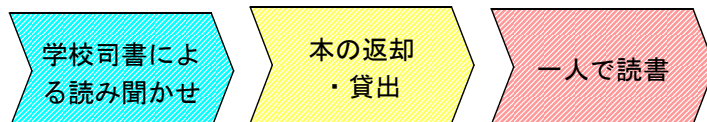
- (1) 読書時間の確保と楽しい読書活動の工夫

読書時間の確保

- ① 朝読書（月・水）
*朝の読書4原則：みんなでやる，時間を決めてやる，好きな本を読む，ただ読むだけ
- ② 国語の時間における読書の時間…低・中学年は週1回
*高学年はモジュールの時間（15分）を利用して毎週本の貸出・返却をする。

楽しい読書活動

① 「読書の時間」の流れ



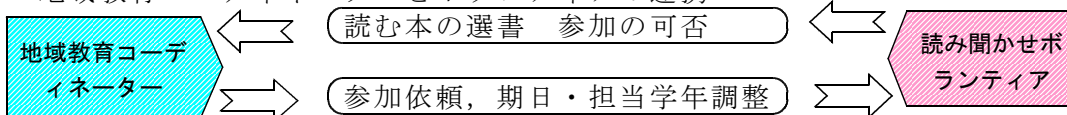
*毎回，学校司書による読み聞かせを行った。

② ボランティアによる読み聞かせ

- ・升潟小学校読み聞かせボランティア 9名
- ・5月～12月 月2回 計14回
- ・読み聞かせの形態：「絵本」，「語り」，「朗読」，「紙芝居」



・地域教育コーディネーターとボランティアの連携



・ボランティアによる読み聞かせは，月2回年14回と大変多く，また読み聞かせの形態がバラエティに富んでいる。児童の聞き方の態度も良く，集中して聞くことができた。

③ 級外の先生による読み聞かせ

- ・ 11月の読書旬間に、低学年は校長、中学年は教務主任、高学年は教頭による読み聞かせを行った。

④ 児童会図書委員会のイベント
「読書クイズラリー」から

- ・ 図書委員が低・中・高学年向けに作成したクイズを異学年集団のグループで解き、正解数を競う。
- ・ 児童朝会でイベントの説明を行い、「読書クイズラリー」の問題となる本を紹介した。事前に興味をもって読んでもらえるようにした。
- ・ 児童朝会では、問題例を示し解く練習をした。



出題する本の紹介

出題する本の貸し出し

問題の例示

異学年集団で問題を解く

集計・結果発表

- ・ 事前に出題する本を紹介したことで、紹介した本の貸し出しが増えた。
- ・ 異学年集団で問題を解く活動を通して、本の内容について交流する機会が生まれた。

⑤ 升小祭チャレンジスクール：お話大好き教室in 升湯

本年度、升小祭（文化祭）では、午後の日程でチャレンジスクールを開催した。その講座の1つに「お話大好き教室in升湯小」を設けた。チャレンジスクールは①「見て」②「学んで」③「発表する」の3つで構成した。活動時間は1時間30分で学校外部講師を4名招き、参加児童は16名だった。

みる



★パネルシアター



★読み聞かせ



★語り

学ぶ

発表する



★学校司書による読み聞かせ講座



★児童による読み聞かせ



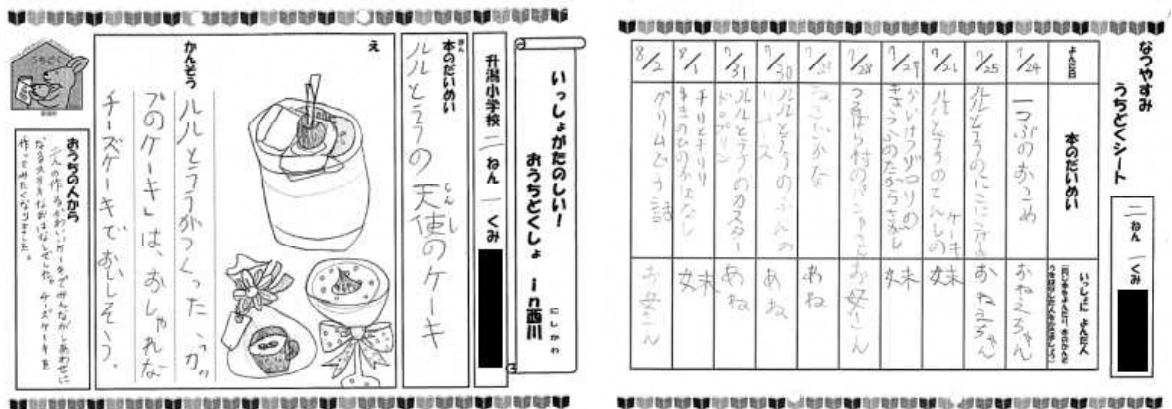
4名の講師による「語り」「読み聞かせ」「パネルシアター」を見た後、学校司書から読み聞かせのやり方やちょっとしたコツを教えていただいた。その後、参加した児童と保護者の前で「読み聞かせ」を発表した。

子どもたちは、事前に読み聞かせをしようと思った本を借りて、家で何度か練習をして講座に臨んだ。低学年が中心でありあまり上手に読むことができない子もいたが、本にしっかり向き合っていて楽しく親しんで読書活動を行っていた。

⑥ いっしょがたのしい！おうちどくしょ in西川（「うちどく」の取組）

『第二次新潟市子ども読書活動推進計画』に基づき、子どもたちの読書環境整備を推進するため、西川地区の小中学校と西川図書館協働で実施。

夏休み中に全校児童が「家読シートに」取り組んだ。



児童が家族と一緒に読書をするとても良い機会となった。児童と親だけでなく、兄弟姉妹、祖父母といっしょに読書をする機会となった。

⑦ 「めあてをもって本をよもう」の取組

読書生活をつり返そう

めあてをもって本を読む

年 名前 _____

①今年度、がんばりたいこと

- () おもしろい本をいっぱい見つける
- () 借りた本は最後まで読みきる
- () 図書館や学室にも役立つ
- () 長編読み物など厚い本も読む
- () おすすめの本をたくさん読む
- () いろいろな分類の本を読む
- () 週2回は本を借りる (曜日と 曜日)

②最後まで読みきる本(完読)のめあて

・学年のめあて

夏休みまで	冬休みまで	一年間で
30さつ	65さつ	80さつ

・最後まで読みきる本のめあてを決めよう

夏休みまで	冬休みまで	一年間で
さつ	さつ	さつ

③めあての冊数は、読みましたか

- () めあてより たくさん読んだ
- () めあては 達成した
- () 達成できなかった

④借りた本は最後まで、読みましたか

- () ほとんど 最後まで読んだ
- () 最後まで読めない本もあったが、わりあい読んだ
- () あまり読まなかった

⑤おすすめの人は、読みましたか

- () たくさん読んだ
- () 少し読んだ
- () ほとんど読まなかった

⑥いろいろな分類の本を、読みましたか

- () 0.絵本 () 1.初学 () 2.歴史 () 3.社会
- () 4.自然和学 () 5.長編 () 6.児童 () 7.芸術
- () 8.漫画 () 9.文学 () 10.その他

⑦特に心に残った本の題名を書きましょう(2冊)

・

・

年度始めのオリエンテーションの時に、「めあて」を記入し、3月に「読書のふり返り」を行っている。

「めあてをもって本を読もう」のカードは、学年によって違っている。

最後まで読み切る本(完読)のめあては、学年のめあてとともに、自分のめあてを設定できるようにしている。



【最後まで読み切る本(完読)のめあて】

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
夏休みまで	80	70	60	45	40	30
冬休みまで	200	155	130	100	85	65
1年間で	230	180	150	120	100	80

(2) 調べ学習における図書館利用の習慣化

調べ学習

① **学級担任と学校司書との連携（本の準備）**

毎月、学級担任が「図書的时间希望カード」に学習で使う本について記入し、学校司書に報告。その希望を受けて学校司書は、本の準備を行う。



② **各学年の調べ学習での図書活用実績**

【1年】

- ・国語「いろいろなおはなしをよんでみましょう」（9月）
- ・国語「いろいろなふね」（11月）
- ・国語「いろいろなおはなしをよもう」（12月）
- ・国語「昔話の絵本」（1月）

【2年】

- ・国語「民話・昔話」（9月）
- ・図工「絵画」バッタ、ザリガニの本（10月）
- ・国語「ビーバーの大工事」動物の本（10月）
- ・国語「むかしばなしをよもう」（11月）

【3年】

- ・国語「ゆうすげ村」関連図書（6月）
- ・道徳「友だちとのかかわりについて考えよう」関連本（6月）
- ・国語「調べて書こう、わたしのレポート」図鑑（7月）
- ・国語「慣用句の本」（11月）
- ・国語「盲導犬の訓練」働く犬（12月）
- ・社会「昔の暮らし」（12月）
- ・国語「わらい話を楽しもう」落語や狂言（1月）

【4年】

- ・国語「助け合う生きもの」（5月）
- ・社会「町たんけん」警察署、消防署、災害救助犬（5月）
- ・国語「ことわざの本」（7月）
- ・国語 P30の本（10月）
- ・国語「和と洋」（11月）
- ・国語「つながりのある物語を読もう」関連本（12月）
- ・国語「こんなほんもいっしょに」はやぶさ関連の本（1月）

【5年】

- ・社会・総合「お米の本」（10月）
- ・国語「和菓子の本」（11月）

【6年】

- ・総合「修学旅行」会津に関する本（4月）
- ・国語「本は友だち」（7月）
- ・国語「立松和平の本」（11月）
- ・国語「ヒロシマのうた」戦争や平和に関する本（12月）

国語の授業で、教材との関連本や教科書で紹介されている本を中心に図書の利用がされていた。国語だけでなく、社会科や総合的な学習の時間、図工、道徳と利用が増えてきた。学校司書の毎月の「図書の時間 希望カード」での声掛けによって学級担任は見通しをもって図書の依頼をしていた。

③ 学級担任と学校司書との連携（「調べ学習の知識・技能」の指導）

『図書館へようこそ』（文：赤木かん子 絵：きしらまゆこ 制作：埼玉福祉会）
 『テーマのきめかた』（文：赤木かん子 絵：きしらまゆこ 制作：埼玉福祉会）
 『百科事典の引きかた』（文：赤木かん子 絵：きしらまゆこ 制作：埼玉福祉会）
 <紙芝居の活用>

<ワークシートの活用>

図鑑でしらべよう!

年 名 姓 _____

1 「もくじ」で調べよう。
 ・これはクジラのながまです。名前は何かかな。
 (セント:「動物」の巻第 480)

2 「さくいん」で調べよう。
 ・「イリオモテヤマネコ」の大きさは、どれくらいかな？

大きさ _____ 冊 _____

百科事典を引いてみよう!

年 名 姓 _____

1 「サザエさん」とは？

『ポプラディア』 _____ 巻 _____ ページ

2 すきなことばをきめて、百科事典を引いてみよう。
 「 _____ 」とは？

『ポプラディア』 _____ 巻 _____ ページ

「テーマの決め方」「図鑑の使い方」「百科事典の使い方」といった調べ学習の知識・技能の指導には、紙芝居やワークシート（自校作成）を使って指導している。

④ 図書館利用のオリエンテーション

4月に全学年が「図書館利用のオリエンテーション」を受けてから図書の借し出しが行われた。学校図書館を「学習センター」「情報センター」として活用する上で身に付けておきたい「知識・技能」である。オリエンテーションの内容は次の6項目である。

図書室のやくそく	本からのおねがい	貸出のやくそく	★利用に当たってのマナー・態度
ラベルについて	本ならびかた	本のわけかた	



(3) 読書センター・学習センターとしての図書館整備, 管理

① 図書館の環境整備の工夫



子どもたちは、ソファーに座って本を読んでいる姿が多く見られます。とてもリラックスできる場所となっています。



新聞は、置くスペースを取らないように、壁に掛けてあります。テーブルにすぐに持って行けるようになっています。

② 貸出カードの工夫



児童個人の貸出カードは、バーコードを貼り、コンピュータで貸出・返却の管理を行っている。しかし、借りた冊数や返却日が分かるようにしている。1冊借りたら1マスを塗り、返却日を記入している。

各学年の貸出カードの裏面には、当該学年の「おすすめの本」30冊のリストがのせてある。読んだ冊数5冊おきにシールが貼れるようになっている。

